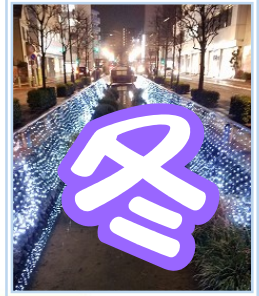




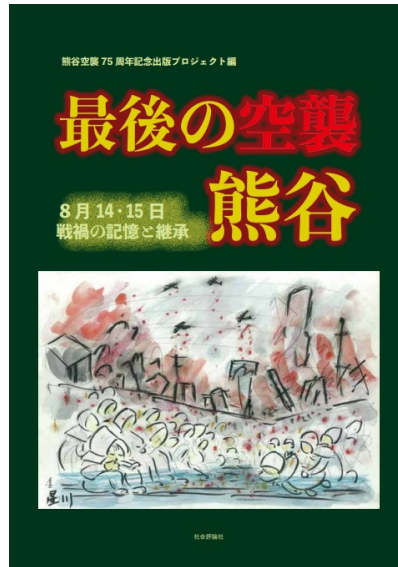
星川だより

熊谷空襲を忘れない市民の会 会報



「最後の空襲・熊谷」
8月14・15日戦禍の記憶と継承を出版

熊谷空襲75周年記念出版プロジェクト
事務局長 吉田庄一



●出版社 社会評論社
●定価 1800円(税別)

2020年が熊谷空襲から75周年と節目の年にあたることから、熊谷空襲を忘れない市民の会では、その記念企画として本を出版することになりました。当会は会員制を取っており、120人余りの賛同者が緩く繋がっていることから、明確な目標を持って本を出版することは難しい面がありました。そこで、会以外にも広く参加を呼びかけながら、プロジェクト方式で行うことになりました。メンバーは、会の共同代表米田主美さん、小川美穂子さん、大久保由美子さん、加藤一夫さん、熊谷市立図書館学芸員の大井教寛さん、イラストレーター佐通真由美さんです。私がプロジェクトリーダー(出版

に際しては事務局長と分かりやすい呼び名を採用)となり2019年にスタートしました。

どのような本にするか、内部で検討を重ねた結果、本書の副題になっている「戦禍の記憶と継承」を中心に据えることにしました。熊谷空襲に関する書籍は、熊谷市文化連合の「市民のつづる熊谷戦災の記録」を初めとして、体験者の記憶を集めた労作がたくさん出版されています。また、空襲から75周年という今、私たちが取り組むべき課題は、体験者が少なくなる中、何より未来への継承ではないかと考え、体験談を直接求めるのではなく、高校生による体験者インタビューを中心に構成することにしました。そして、それを補完する意味合いで、熊谷で日頃から文化活動を牽引している方々(金子貞雄さん、米山実さん、篠田勝夫さん)に参加をいただき、座談会を開催しました。座談会では、熊谷空襲そのものを含め、「文化」という切り口で「戦争」を語ってもらいました。ざっくりぼらんの座談会で戦争の一面が浮かび上がったと思います。また、本書の構成の前提として熊谷市立図書館学芸員の大井教寛さんによる、熊谷

の歴史(戦前・戦中・戦後)を生活目線で捉えた「熊谷空襲とその時代」、後半では、元静岡福祉大学学長の加藤一夫さんによる「空襲体験・戦争動員・敗戦そして戦後へ」を執筆いただきました。共に、空襲を歴史的な文脈から読み取った内容となっており、熊谷という日本の一地方の歴史を、まさしく広く深くそして客観的に捉えることができたと思っております。

ところで本書は、2020年夏に出版することを目標としていましたが、新型コロナウイルスがパンデミックとなり緊急事態宣言が出される中、当プロジェクトも中断を余儀なくされ、夏の出版は断念しました。しかしながら90歳前後の熊谷空襲体験者のみなさんやこの間協力をいただいた方々の情熱に後押しされ、どうにか11月10日に出版することができました。関わってくださったみなさまに感謝いたします。

本書の反響ですが、私たちが想像していた以上に大きいものでした。11月には地元タウン誌「NAOZANE」に取り上げられ、11月26日東京新聞、12月9日埼玉新聞、12月30日朝日新聞、年が明けて1月22日毎日新聞、1月24日赤旗に掲載されました。また、12月11日にはJcomの「つながるNEWS」で放映されました。熊谷空襲を忘れない市民の会では、拡大大熊谷平和講座を12月19日に

荒川公民館で開催し、コロナ禍での人数制限はありましたが出版報告会を行いました。

お陰様で販売数は順調に推移し初版の在庫は少なくなってきました。また、再版の準備をしています。また、本書を長く普及する目的で、専用ホームページを立ち上げ情報発信を始めました。そして、編集過程で新たな発見や深めなくてはならない課題も浮かび上がっており、今後に繋げていきたいと思っております。



専用ホームページ
<https://kumagaya75b.jimdofree.com>

●本書を取り扱っている書店
須原屋(本店・八木橋店) 戸田書店 AZくまざわ書店 熊谷堂書店など

●右記以外で本書を取り扱っている店舗等

・中家堂・熊谷市市民活動センター・みんなの家・ゆめみる本屋さん・プレイスコヒー・電髪倶楽部・ネーキッドカフェ・Ｑちゃんカレー・y.s.カフェ・ホシカワカフェ・サラマエコーシャ
・深谷シネマ・須方書店(深谷)・不二家薬局・忍書房(行田)・あばれい・かぐや(滑川)・NINOKURA・くまがや館・カフェストライク

『核なき世界』に向けて
（熊谷平和講座31）を受講して



今回の熊谷平和講座は、密を避けながら少しでも多くの方に参加いただけるように荒川公民館で開催しました。

その他の方法によって取得し、保有しまたは貯蔵すること。」と核兵器そのものをすべて禁止し「核兵器は違法」とする国際法である。1954年に第五福竜丸の乗員が水爆実験の「死の灰」を浴びた事件をきっかけに、原水爆禁止を求め市民運動が起きた。私が小学生の時である。原爆マグロ、ガイガーカウンターなど子供心に印象に残っている。それらの日から、日本国内でまた世界で核兵器廃絶を願った人があつてきたものである。とは言え、まだ「核兵器は違法」のスタート地点に立ったところだ。

決を下した。黒い雨をめぐる初の司法判断で、国は援護対象区域の見直しを迫られることになった。しかし、国は上告し、核兵器被害者への適切な援助責任を果たそうとしていない。全く遺憾なことである。

「黙っているのはダメ」

「核兵器禁止条約」に日本政府は背を向けている。戦争も核兵器も原発も人の命を脅かすものは絶対にダメ。でも平和は黙っているだけでは勝ち取れない。さらにまた長い道になるかもしれないが、いつまでも声を上げていかなければ。

下山紀夫(9条の会・熊谷)

「黒い雨訴訟」

昨年12月19日、加藤一夫先生による上記をテーマとした平和講座が行われた。2017年7月7日に国連総会で122か国の賛成で採決された「核兵器禁止条約」が、50か国(当時)の批准を得て今年1月22日から発効された。この「核兵器禁止条約」発効後の諸問題についての講座だった。この講座で多くのことを知ることができたが、最も良かったのは「核兵器禁止条約(TPNW)」の全文(日本語訳だが)を読むことができたことである。

条約の第6条(被害者に対する援助及び環境の回復)では、国は核兵器被害者への適切な援助、汚染地域の修復(原文は長文なので省略)を課していることである。ここで思い起こされたのは「黒い雨訴訟」である。広島へ原爆投下の日、近隣に降った黒い雨の範囲をめぐっての被曝補償をめぐる訴訟である。2018年に「9条の会・熊谷」で講演をしていたいた気象学者の増田善信さんが黒い雨研究が深くかわわっている。2015年、実際の被爆地域(黒い雨の降った地域)は国の認定している地域より広がったと被爆者健康手帳の交付などを求めて広島地裁に集団訴訟を起こした。この訴訟に対して広島地裁は、原告全員を被爆者と認めるよう命じる判

「コロナは何をもたらしたのか?」

ポストコロナの社会構想を展望する
「熊谷平和講座32」に参加して

新型コロナウイルス感染症拡大によって、社会の様々な矛盾と問題が明らかになった。新自由主義経済によって、10年間に約半数にまで削減された全国の保健所と保健師、さらに公立病院の統廃合や独立行政法人化などによる医療体制の脆弱さが露呈された。感染拡大は、全労働者の40パーセントを占めるまでになった非正規労働者はじめ、母子家庭、障がい者、高齢者、さらにはアルバイトを失ったことで収入を断たれた学生など、社会の弱い立場の人々に容赦なく襲いかかって

いる。一方で、株価は高止まりを続け、大企業は内部留保を増やし、富裕層も巨万の富を手に残している。菅政権も困難に直面している人々や懸命の活動を続ける医療関係者の支援よりも、コロナ禍を利用して一気にマイナナーの普及拡大などの方向へと向かっている状況である。

今、私たちはグローバル資本主義の現実をしつかりと見極め、考え直す時に来ている。感染拡大の中、正確な情報の欠如は社会に不安を増長させ、差別、偏見を生み出している。私たちは、冷静に状況を分析するとともに、人間同士の繋がりと連帯を確認するべきであろう。従来の効率、生産性一辺倒の経済政策から、連帯と共同(コミュニティ)の社会への転換をどうはかかっていくのか。では私たちに何ができるのか。あらためて地域(ローカル)に目をむけ、

そこに内在する諸問題にどう向き合い、解決への道を模索していくのか、2020年超党派で制定された「労働者協同組合法」の意義を考え、「自助」よりも「共助」、「公助」に立脚してともに共存しあえる社会を構築していくことではないだろうか。

感染収束はまだまだ見えないう状況ではあるが、展望も見え始めた今、地域の繋がりを構築していく道筋を、地域という足元から考えてみたい。

竹内 悟

(熊谷地域労働組合連合会)
※本講座は2021年1月23日熊谷緑化センターで開催しました。



ウルトラマン大仏
角川武蔵野ミュージアム

～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願い致します。
なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321
加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会
口座名称力ナ: クマガヤクウシュウワスレナイ
シンミンカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店(019)
預金種目: 当座
口座番号: 0265321

会計報告 (2020/9/28~2021/1/30)

収入: 27,113 円
支出: 31,190 円
残高: 131,949 円

編集委員 吉田庄一 米田主美
連絡先 吉田庄一(090-4957-9181)
メール imajn241@gmail.com
HP <http://www.peace-kumagaya.org/>